

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年6月23日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.126】

JR総連組織内候補の公認は「左派勢力への無警戒」と警鐘！

自民党・佐藤勉衆議院議員が提出した「革マル派によるJR総連及びJR東労組への浸透に関する質問主意書」に対し、5月11日に民主党政権が「JR総連及びJR東労組内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」などとする答弁書を閣議決定した一方で(「No.117」参照)、民主党が第22回参議院選挙において、JR総連・東労組の政策調査部長を歴任した幹部役員である組織内候補T氏を公認したことについて、産経新聞は、6月22日朝刊で「左派勢力への無警戒」として厳しく警鐘を鳴らした。「新民主党解剖 第6部 革命政権の行方(上)」と題し、「幹事長側にJR総連マネー」として、以下の記事が掲載されている。

民主党幹事長、枝野幸男の資金管理団体が、平成8年から11年までの4年間で、全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連)と東日本旅客鉄道労働組合(JR東労組)から、計404万円に上る献金やパーティー券購入を受けていたことが21日、分かった。両労組について政府は5月11日の閣議で、殺人など多数の刑事事件を起こしている左翼過激派、日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派(革マル派)の活動家が「影響力を行使し得る立場に相当浸透している」とする答弁書を決定している。-(中略)- JR総連は5月20日付で、答弁書は「誹謗・中傷」だとして民主党側に指導を求める要請書を送ったが、枝野自身はどう考えているのか。-(中略)- ただ、こうした左派勢力への無警戒ぶりは、独り枝野だけの問題ではない。民主党は参院選の比例代表候補としてJR総連の組織内候補でJR総連政策調査部長、JR東労組政策調査部長などを歴任した人物を公認している。(敬称略)

革マル派の動向には細心の警戒心が必要だ！

産経新聞が指摘する通り、わが国の治安を守るべき政権与党である民主党に、左翼勢力への警戒が求められることは言うまでもない。JR連合は、今回の参議院選挙のJR総連の組織内候補に関して、一貫して、民主党の公認と連合の推薦については反対を表明してきた。政府答弁書は革マル派について、「共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団」「組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図って」おり、「(今後も)組織拡大に重点を置き、党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っていくものと見られる」とまで危険性を指摘している。このような反社会団体である革マル派に対し、さらに、民主党政権が革マル派の浸透を認定したJR総連・東労組の動向について、公安上の視点から、細心の警戒が必要であることは言うまでもない。

民主党政権の閣議決定したことについて、自民党は先の通常国会の予算委員会で、JR総連への革マル派の浸透と次期参議院選挙における組織内候補の問題について追及する予定であったという(「No.125」参照)。今回の新聞記事によって、この問題に対するマスコミや政界などからの関心や注目がさらに高まるだろう。社会問題として、さらに追及が進むことは間違いない。JRへの革マル派の浸透問題は、JR発足25年の節目までに解決しなければならない、国鉄改革で残された最重要課題のひとつだ。民主党政権には、わが国の治安確保のために、この問題に警戒心を持ち毅然とした姿勢で臨むよう強く求めたい。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>